

# みんぱくワールドシネマ

映像から考える〈人類の未来〉



# はちどり

© 2018 EPIPHANY FILMS. All Rights Reserved.

第56回上映会

2024年1月27日[土] 13:30~16:30(開場13:00)

場所 国立民族学博物館 みんぱくインテリジェントホール(講堂) **要展示観覧券**  
定員 350名  
主催 国立民族学博物館

House of Hummingbird / 벌새

2018年/韓国/韓国語/138分/日本語字幕付き  
監督/キム・ボラ  
出演/パク・ジフ キム・セビョク  
司会 菅瀬晶子(国立民族学博物館 准教授)  
解説 諸昭喜(国立民族学博物館 助教)

## 申込について

事前申込制(先着順)での開催となります。  
代表者を含め2名まで申込可能です。

【受付期間】2023年12月18日(月)10:00~2024年1月19日(金)16:00

※定員になり次第受付終了。

※解説時に手話通訳が必要な方は、12月29日(金)までに申し込みたい旨をお知らせください。

予約状況はイベント予約サイトでご確認ください。

事前申込の方へ、当日11:00から本館2階会場前にて展示観覧券を確認後、入場整理券を配布します。定員に満たない場合のみ当日参加を受付けます。

## 申込方法

### ● イベント予約サイトからの申込

[イベント予約サイト]

<https://entry-reservation-event.minpaku.ac.jp/>

### ● 電話での申込 次の必要事項をお知らせください。

- ① イベント名 ② 参加人数(代表者を含め2名まで) ③ 氏名(漢字、フリガナ)  
④ 連絡先(固定電話/携帯電話/メールアドレス いずれか) ※③、④は代表者のみ

【申込先】企画課博物館事業係イベント予約受付 Tel:06-6878-8210(10:00~16:00 土日祝除く)



イベント予約サイト



国立民族学博物館  
National Museum of Ethnology

関西から

文化力  
POWER OF  
CULTURE

# みんなくワールドシネマ

## 映像から考える<人類の未来>

国立民族学博物館は2009年よりさまざまなテーマを設定し、研究者による解説付きの映画上映会「みんなくワールドシネマ」を開催してきました。今年度も「映像から考える<人類の未来>」をテーマとし、世界の人びとのさまざまな生活・考え方を描いた映画をとおして、よりよい未来を考えていきます。今回は、1990年代の韓国を背景に、一人の女子中学生の日常生活と心情を繊細に描いた女性監督作品「はちどり」を上映します。当時の韓国社会の変化の中で成長していく一人の少女の想いと、女性の在り方が劇的に変化している現代社会で監督がこの作品にこめた想いについて考えたいと思います。

第56回上映会

2024年1月27日(土) 13:30~16:30 (開場13:00)

場所 国立民族学博物館 みんなくインテリジェントホール(講堂) **要展示観覧券**

定員 350名

主催 国立民族学博物館

## はちどり

### House of Hummingbird / 벌새

2018年/韓国/韓国語/138分/日本語字幕付き

監督/キム・ボラ

出演/パク・ジフ キム・セビョク

司会 菅瀬晶子 (国立民族学博物館 准教授)

解説 諸昭喜 (国立民族学博物館 助教)

#### 映画解説

急激な経済成長の影で、様々な矛盾がせめぎ合っていた1990年代の韓国を舞台に、孤独にさいなまれる女子中学生の葛藤の行方を見つめる人間ドラマ。1994年、小さな餅屋の商売で手一杯の両親や無口な兄姉と、ソウルの集合団地で暮らす14歳のウニは、諍いの絶えない家庭でも学歴偏重教育を強いる学校でも、疎外感を覚えていた。漠然と通う漢文塾で、名門大学を休学中の新任女性教師に惹かれたウニは、どことなく影を帯びるも親身に助言を授けてくれる彼女に感化され、何かと生きづらい世の理不尽に立ち向かう活力を育んでいく。鮮烈な長篇デビューを飾ったキム・ボラ監督は、かつての自身にも重なる感受性豊かな少女のまなざしをとおり、強圧的に振る舞う父や大学進学を諦めた後悔を引きずる母、受験のストレスを暴力で紛らわす兄や夜遊びで現実逃避を図る姉らの、言い知れぬ苦悩も細やかに描出。北朝鮮の金日成主席の訃報や聖水大橋の崩落事故の衝撃など、私的な当時の記憶を巧みに織り込みつつ、ままならない日常の鬱屈と闘う誰もが共鳴し得る名篇に仕上げ、釜山やベルリンをはじめ国際的な映画祭で賞賛を浴び、日本ではキネマ旬報ベスト・テン第2位に輝き、韓国でもインディーズ作品として異例のヒットを記録した。(映画評論家 服部香穂里)

#### 暗い時代に灯す、小さな希望の灯

2018年に公開されたこの映画は、「インソール生理ナプキン事件と月経権運動(2016~)」、「#MeToo運動(2018~)」など、フェミニズム・リポート現象とジェンダー葛藤が社会的な問題となったことを反映している。この時期、女性作家や監督は自分自身の経験を作品に取り入れ、社会的な共感を得た。小説『82年生まれ、キム・ジヨン』(2016)と映画「はちどり」もその文脈で理解される。小説『82年生まれ、キム・ジヨン』が女性の人生に対する抑圧、不平等、不条理を鋭く描いている一方、映画「はちどり」は学生と周りの人々との関係、出来事からくるその感情を非常にゆっくりとしたペースで画面に収め、観客に自分の反応と感情を反芻する十分な時間を与える。

この映画は現在の若い世代にも反響を呼んだ。1990年代の半ば以降に生まれ、2014年のセウォル号沈没、2019年末からはじまったコロナ禍、2022年のイテウォン事故、そしてポストコロナの経済不況を経験した若い世代に、この映画は無力感、虚無感、不安、抑圧などを共感させた。しかし、この映画は暗いメッセージだけではなく、慰めも提供しようとする。キム監督は世界で最も小さな鳥であるハチドリのような強い生命力、希望、愛を表現したいとして、タイトルを「はちどり」と付けたと言う。彼女が世界のハチドリに送る慰めのメッセージを自分でも受けとめてみよう。(諸昭喜)

#### 映像から考える<人類の未来>

国立民族学博物館 准教授 菅瀬晶子

映画がこの世に誕生して、120年あまり。最初は日常生活の一端を切り取ったものでした。いまや日本では年間に1300本に迫る数の映画が公開され、その内容も多種多様です。世界のさまざまな地域で、現在進行形で起きている問題を扱う作品も年々増えてきました。問題意識を喚起する手段として、映画は実に有効なのです。

みんなくワールドシネマでは、所属する研究者の個別研究や現在進められている研究プロジェクトの内容に沿った映画を選び、その内容を研究者が解説することによって、最新の研究成果と映画のより深い理解を観客のみならずと共有することを目的としています。紛争、差別、環境変動などを超えて、異なる価値観を持つ人びとはどう共存していくべきか。終映後、あらたな視座がみなさまの中に生まれれば、さいわいです。



©2018 EPIPHANY FILMS. All Rights Reserved.



- 開館時間..... 10:00 ~ 17:00(入館は 16:30 まで)
- 休館日..... 水曜日(水曜日が祝日の場合は、翌日が休館) 年末年始(12月28日~1月4日)

#### 交通のご案内

- 大阪モノレール... 「万博記念公園駅」、「公園東口駅」下車徒歩約15分
  - バス..... 阪急茨木駅・JR茨木駅から「日本庭園前」下車徒歩約13分
  - 乗用車..... 万博記念公園「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分
- ※大学生・一般の方は万博記念公園各ゲートで、当館の観覧券をお買い求めください。  
同園内を無料で通行できます。  
※高校生以下の方、国立民族学博物館友会の会員の方は万博記念公園各ゲート有人窓口で、みんなくへ行くことをお申し出いただき、通行証をお受け取りください。  
※万博記念公園をご利用になる場合は、同園入園料が必要です。

- 観覧料..... 一般 580円 / 大学生 250円 / 高校生以下 無料  
※観覧料割引についてはホームページでご確認ください。

〒565-8511  
大阪府吹田市千里万博公園10番1号  
企画課 博物館事業係  
Tel: 06-6878-8210 Fax: 06-6878-8242  
https://www.minpaku.ac.jp/

